

令和３年度 第４回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1. 開催日時

令和４年３月２３日（水）１４時３０分～１６時４０分

2. 開催場所

中部森林管理局 大会議室（対面及びweb併用）

3. 検討内容

- （１）国有林材供給調整対策について
- （２）情報交換等
- （３）その他

4. 検討結果

高値が続いていた管内の原木価格は、１月に入り一部下落する銘柄も見られるなど、地域や樹種により値動き等に差異が見られるようになってきているが、総じて国産原木に対する引き合いは依然として強い状況にある。

また、不安定な国際情勢等により、輸入材の供給動向も引き続き不透明な状況が続くと予想されている。

このため、管内の木材需給動向や民有林材の供給状況、輸入木材製品の供給動向に注視しつつ、堅調な国産材需要に的確に対応できるよう国有林材の安定的な供給に取り組むことが重要である。

なお、直ちに国有林材の供給調整を行う必要はないが、引き続き市場や需要者への確実な供給に努めるとともに、令和４年度の国有林材の計画的な供給に向け、生産事業の早期発注への準備を進めることが重要である。

5. 委員意見等

○ヒノキは岡山や九州方面の用材が大量に管内に入ってきており価格が下落している状況。ウクライナ危機により欧州やロシア等輸入材の供給が懸念されており、価格は上がっていくだろう。こうした状況に、大手商社や製材工場、プレカット工場等でどう対処していくか、代替品として国産材を利用していくためには、川下対策も必要だが、より一層の川上対策が重要である。

○製材工場は装置産業のため、原材料がなければ経営は成り立たなくなる。国産材への代替需要が増大していく中で、山側からどう供給するかが重要な課題である。

○ロシアからの輸入単板が停まればカラマツ単価は上昇するが、山側としては供給できないでは済まないため、事業量の確保が重要である。

○数年前から並材の中でも低位にある丸太が中国に輸出されていたが、最近では品質の良い元木を買う傾向にあるが、国内では強度があれば何でも良いという傾向が強く、役物を好まなくなっている。また、九州や東北では大規模製材工場が建設されているが、これにより丸太の動きが変わりつつあり影響が出てくる。

○国産材の増産は必要だが現状では難しく、伐採後に必要となる造林・保育の費用や人員の確保と伐採作業とのスケジュール管理等が必要となる。今後、各地で立木在庫の確保、伐採時期を意識した素材生産や丸太・製品としての在庫管理が可能となれば面白い。

○県としては路網整備、高性能林業機械の導入、木材加工施設整備等の対策を実施する計画のほか、担い手対策としては、林業就業者の約6割を50歳以上が占めていることから、新規就業者の確保が重要な課題である。